

令和7年度 かほく市立高松中学校 学校評価最終報告書

★：かほく市令和7年度重点目標

令和8年2月9日

経営目標	取組内容	現状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価		次年度の方向性				
					前期						
					%	%					
1	学力向上	「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の取組の推進(県教育委員会より研究推進校に指定)★ ① 研究の取組の推進(県教育委員会より研究推進校に指定)★	・石川県教育委員会より研究推進校の指定を受けた「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」について全教職員で実践に取り組んでいく。本校では「令和の日本型学校教育」を生きていく上での課題解決に自ら挑むことと捉え、子供が自分で自分の背中を押す「学び続ける力」と、他者の学びと協働することで自己の「学びを調整する力」を養い、各教科でつけたい力の獲得を目指していく。 ・令和6年度の研究より「子供に学びを委ねる」授業実践に向け必要性を感じた、教師が子供の学びの姿を見取り、評価することで子供の学びを後押ししたり、「協働的な学び」につなげたりする取組を進めたい。	・教職員は子供に学び方を委ねた「高中スタイル」の授業に取り組んでいる。 【教職員・努力】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	C	88.2	A	100.0	・「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の成否を測る視点で、令和7年度より学校評価の観点を新たにした。 ・今年度導入した「高中スタイル」という授業モデルを実践し、そのモデルを支える教科を越えた視点で4研究部会を設けて全教職員で取組を実施している。後期に評価が上がったことは、教職員それぞれが実践を積むことで「子供に時間を委ねる」という怖さも徐々に薄まってきたことの現れと考察する。引き続き、教科部会、4研究部会を中心に授業研究を進めていく。	
			・教職員は「高中スタイル」の授業において、子供の評価を見取り「協働的な学び」につなげている。 【教職員・努力】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	88.2	A	94.4	・11月に開催した公開研究発表会では、県内外より100名を超える学校関係者の参加があった。今年の実践を振り返り、教科の特性を加味した令和8年度版の「高中スタイル」を作成し研究を進めていく。		
			・授業では、他の人の考え方や意見を自分の学びに生かしている。 【生徒・成果】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	94.3	A	94.1	・令和7年度同様に各種学力調査の分析（教師の指導上の課題発見）、教科部会で学期ごとに設定した目標とその達成度を分析する。また、その目標及び達成度を測る指標（過去の学力調査問題等）を「教科等の資質・能力育成シート」に明記し指導の一助とする。		
	学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進	学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進 ② 学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進	・各種学力調査の分析(教師の指導上の課題発見)を各教科部会で行い、その分析を全教職員で共有し、その内容を「教科等の資質・能力育成シート」に反映させている。 ・昨年2学期は指定研究の趣旨に応じた授業研究・実践を教科部会で実施した。今後も教科部会を単位に授業研究を行い、そこで得られた知識・経験を学校全体で共有することで学力向上に努めたい。	・教職員は、学力調査の結果を分析し、「教科等の資質・能力育成シート」に基づく指導をしている。 【教職員・成果】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	A	100.0	A	100.0	・教科部会は令和7年度の実践に加えて、次年度秋に開催する公開研究発表会に向け、指導者を要請した授業研究を実施する。	
			・教職員は、「教科部会の内容が充実している」と感じている。 【教職員・満足】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	B	94.1	A	100.0			
			・アンケート結果からは高評価が得られており、今後も継続を期待する。 ・「高中スタイル」の授業は学力を向上させるだけでなく、自分で考えて動く力・先を見て考える力といった社会に出てから必要となる力も高めていると思われる。 ・昔のスタイルとは違い、テーマに合わせて自分から行動する授業は理想の学習方法のように思う。								
学校関係者による意見											

経営目標	取組内容	現 状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性	
					前期		後期			
						%		%		
3 健康教育の充実と体力向上	① 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を対象として栄養教諭を講師に招聘し、食育についての学習会を実施した。保護者を対象に給食試食会・食育講座を実施することで、一昨年までの、残菜〇の指導から、将来の食生活を見通した指導が定着してきた。 保護者アンケートにおいて「お子様は朝食を毎日食べている」との回答が93%（「朝食を毎日食べている」と回答した生徒は96%）と例年なく低く、家庭での様子が気にかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校は給食指導等の機会を捉え、食育指導を行っている。 【教職員・努力】 	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	A	100.0	A	100.0	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭を講師に招聘した食育講座の取組を継続していく。次年度はPTA行事の精選から給食試食会は実施しないが、年2回の健康安全の日の取組等を通して家庭との連携を図り、生徒の健康増進に努めていく。 体力テスト8種目（男女とも）のうち、県平均以上の種目数は 男子:3種目、女子:2種目（6月実施）であった。令和7年度後期は、保健体育の時間に平均を下回った種目についての補強運動を実施した。次年度は小学校と体力テストの結果を共有し、小中学校で連携した指導を考える。 	
					D					
	② 体力・運動能力の向上★	<ul style="list-style-type: none"> 体力テスト8種目（男女とも）のうち、県平均以上の種目数が減少した。苦手種目について、保健体育の時間に補強運動を実施していく。 メール・ネットの使用時間は微増だが、今年度の特徴として「平日に1時間以上学習している」と回答した生徒が全生徒の3分の2を超えた。（昨年度より20ポイント以上増）健康な身体を作る中学生時期の生活について考える活動を今後も継続していく。また「かほく市ネットルール」を取り上げたり、実際に起こったトラブルを例に挙げ指導したりするなど、あらゆる機会を通じてネットモラル・マナーについて指導・啓発する機会を今年度も設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおける、県平均値以上の種目数（全8種目） 【生徒・成果】 	A:7種目以上 B:6種目 C:5種目 D:4種目未満	A		A		<ul style="list-style-type: none"> 後期アンケート結果によると、学習以外でメール・ネットを2時間以上使用している生徒の割合は、平日45.7%、休日79.2%と年々増加している。次年度もあらゆる機会を捉えて学年、学級を通してネットモラル・マナー及び時間の使い方について指導していく。 	
					A:4回以上 B:3回 C:2回 D:2回未満					
学校関係者による意見	<ul style="list-style-type: none"> 生涯に渡る体力・筋力の基礎は、学生時代の活動が大切になると思う。今後も学校での活動を大切にしてほしい。 自転車のルールが変わってきてるので、中学生向けの安全講習会を開催してほしい。 スマートフォンの学校への持ち込みは許可されているのか。学校から帰る時間の連絡のために保護者が持たせている生徒もいると耳にしますが。(回答)持ち込みは禁止です。学校の日課・部活動の予定等は、事前にお知らせしているため必要はないと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校はネット社会の光と影、マナーとモラルについて指導する機会を設けている。 【教職員・成果】 生徒は「かほく市ネットルール」を心がけている。 【生徒・努力】 	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	82.7	C	78.3			

経営目標	取組内容	現状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価		次年度の方向性
					前期	後期	
					%	%	
4 円滑な組織運営と学校の活性化	① 営と校務分掌の確立 ② 学校評価を生かした学校運営 ③ 信頼される学校づくりのための連携強化★ ④ コミュニティスクールを生かした魅力ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌部会が、整理・統合の視点から校務を見直す共通理解の場となっている。校務分掌部会は、学校評価アンケート結果を基に、分析や改善策も検討し円滑な校務遂行のための役割を果たしている。 ・夏季休業中には3校共通の取組「子供主体の授業」について、実践報告し教科ごとで協議する場を設けた。 ・昨年度より業務の負担感を考慮し、小中連携の時期や内容の見直しを図った。今後も継続していく。 ・「学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる」の達成度がA評価であった。今後も学校行事、各種たより、ホームページ等を活用し、学校の教育活動について保護者・地域への発信を進めていく。 ・1年生の地域学習、2年生の職場体験学習、3年生のSDGs学習、探究学習の講師として、1、2年生への本の読み聞かせ等に、50名を超える外部の方に(職場体験受け入れ先を除く)、学校の教育活動を助けていただいている。生徒の視野を広げ、自身の生き方について考える機会を今後も教育課程に位置づけていく。 ・学校は、地域の外部人材を積極的に活用している 【教職員・成果】 	・教職員は自己の役割が明確で職務を円滑に遂行している。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A 100.0	A 94.7	・すべての取組において、教職員の共通実践、保護者満足度評価の高さが見られる。来年度もこの状態を継続していく。
			・学校評価アンケートの結果の分析及び学校運営協議会の意見を基に、教育活動の改善に努めている。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A 100.0	A 100.0	・指定研究の取組が軸となり、学年会、校務分掌部会、教科部会等がより計画的に活発に行われ、共通理解や教育活動の検証・改善の場となっている。次年度も各部会が各種調査結果、学校評価アンケート結果を基に分析した結果を教育活動に反映していく。
			・小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。 【教職員・成果】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	A 100.0	A 100.0	・次年度も夏季休業中に校区3小中学校の教員間で意見交換する場を設けたり、6年生と中学校1年生との交流会、6年生対象の中学校教員による授業体験を実施する。業務の負担感を考慮しながら、児童生徒の交流や教職員間の交流を計画し中学校とのスムーズな連結を進めていく。
			・学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる。 【保護者・満足】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B 85.0	A 91.2	・後期は「学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる」の肯定的評価が90%を越えた。次年度も保護者が来校する機会、各種たより・ホームページ等を活用し学校の教育活動について保護者・地域の方々に理解を求めるごとに、迅速かつ丁寧な対応をすることにより、保護者が子供を通わせたくなる学校づくりに取り組む。
			・保護者は学校便り・ホームページ等を通して、学校の方針や生徒の様子等を知ることができる。 【保護者・満足】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A 94.5	A 91.2	・今年度も各学年の探究学習、2年生の職場体験学習、1・2年生への本の読み聞かせ、教職員研修会の講師等に、地域の方、外部からの専門家に講師を招聘した。次年度もコミュニティスクールの強みを生かし、地域・外部の方の力を借り教育目標の実現に取り組んでいく。
			・学校は、地域の外部人材を積極的に活用している 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	A 100.0	A 100.0	・今年度も各学年の探究学習、2年生の職場体験学習、1・2年生への本の読み聞かせ、教職員研修会の講師等に、地域の方、外部からの専門家に講師を招聘した。次年度もコミュニティスクールの強みを生かし、地域・外部の方の力を借り教育目標の実現に取り組んでいく。
学校関係者による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からは高評価が得られており、今後も継続を期待する。 ・6年生に子供がいるが、体験授業や新入生説明会への参加により中学校入学への不安が少し減ったと家庭で話をしていた。今後もこの活動を続けてほしい。 ・職場体験や大学訪問などの活動は自分の学生時代にはなかったことで、自分の将来をイメージする良い活動だと思う。今後も継続してほしい。 ・学校CNを介した生徒が地域に出る教育活動を新聞や回覧板で知る機会もあった。今後も同様の形で発信があるとよい。 				

経営目標	取組内容	現状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性	
					前期		後期			
					%	%	%	%		
5 教職員の働き方改革の徹底	① 教職員の時間外勤務の削減★	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭を学習成果発表会に改編したことと、後期より平日の部活動活動日を1日減じたことにより、昨年10月～2月の教職員の時間外勤務時間は、一昨年に比べて69時間減少した。 ・依然として時間外勤務が80時間を超える教職員もいるために、決められた時間内で働く意識をさらに高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。 【教職員・成果】 	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	89.5	C	72.2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の肯定的評価は15ポイント減少しているものの、教職員平均の勤務時間は減少している。職員それぞれが、決められた時間内で働く意識をさらに高められるようにしたい。 ・次年度から教員の休日における部活動指導が廃止となるが、時間外勤務時間を減少することだけが目的にならないよう、今後も生徒と向き合う時間の確保、生徒の学力向上、教員の授業準備時間確保を目的とした時間外勤務を減少する努力を継続していく。 	
学校関係者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・他県で学校を開ける時間が午前7時になるというニュースを聞いたが、それは勤務時間ですか。 (回答)本校職員の勤務時間は午前8時から午後16時30分です。学校は7時40分に開けます。生徒の安全を考慮し、7時40分以前に職員も学校にいますが時間外勤務です。 ・月の平均時間外勤務時間が30～45時間なのは、一般企業と同じでそこまで気にすることではないのではないか。 (回答)勤務終了時刻が午後16時30分なので、部活動指導は基本時間外勤務です。学校を離れても授業準備や会議資料の作成など持ち帰って仕事をする職員もいます。報道にあるように企業のように個人の時間外勤務時間に応じた手当がなく、教員を志望する者が減っていることを危惧しています。かほく市は部活動の地域展開に取り組んでいただいたり、令和8年度から教員が部活動に携わることなくしていただいたりして、他市町より助けられていることを付け加えます。 ・残業〇の職場に勤務しているため、先生方のストレスを心配します。 ・学校での勤務経験から先生方の大変さを見ています。給食時間が休憩時間扱いだが、給食指導もあり休みなく過ごしているのを見て大変に思っています。 								